

# 街を行く

第59回 豊橋 Toyohashi

## 淡々として大都市に媚びない街

愛知県豊橋市を訪ねました。真夏の街歩きはキツイのが当たり前。とはいえ正直夏バテで倒れそうになりました。今年の「暑さ」は異常、暑さでなく「熱さ」にやられてしまいます。

街を知るには自分の足で歩き、空気を吸い込んで肌で感じるのが一番、との信条に従って勇んで街を歩き始めた小生ですが、今回ばかりは耐え切れずに「路面電車」へ飛び乗った次第です。なぜか車内は日焼けで真っ黒なサッカー少年達が一杯で、冷房が効いているのにもかかわらず暑さが倍増した出来事でした。

そうこうするうちに市中心部の城址公園へ到着。歴史的建造物の公民館、国の重要文化財である正教の教会を眺めながら、取ってつけたものでない古くからの街の文化・存在感を感じました。

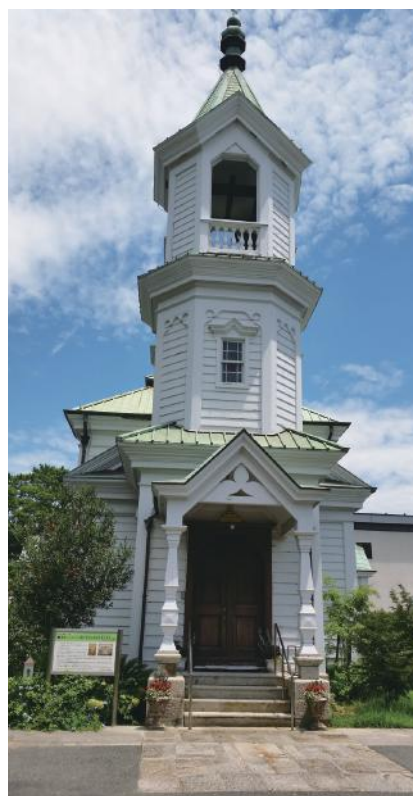
豊橋は、戦国の頃から江戸時代にかけて、関東の侵略から尾張を守るための要所だったそうです。一説には当時、街それぞれには役割があり、たとえば大名のお膝元には「防衛型」、仮想敵エリアには「攻撃型」、その中間に「情報収集型」の街がつくられていたそう。3類型の中で豊橋は、情報収集型の街として人と情報が行き交い文化が形成されていったみたいで

す。一方、食文化については完全に名古屋と同じで豊橋名物は耳にしませんでした。昼ご飯にはどこの食堂メニューにもある「エビフライ」を注文。ボリュームの凄さに驚かされましたが、地元の人には食べ飽きているのか、喜んで注文していたのは小生だけでした。

腹ごしらえで元気を取り戻し、しばらく探



中心街を結ぶ路面電車と豊橋ハリストス正教会



索したのち街を離れましたが、これといった収穫はなし。ただ、これまで訪れた場所は県庁所在地が多く、無個性なミニ東京みたいな街ばかりみてきたせいか、淡々と何にも媚びず我が道を行くザ・豊橋の様子は新鮮です。淡々としているだけに何も話が膨らんでいかないのが心苦しいところですが。

よって、もう豊橋と関係ない話題に変えますが、実はいつも気になっていることが1つあるんです。名古屋と静岡の文化の境界線の問題です。小生の考えでは、エビフライと鰻の文化の違いと思うのですが、みなさん如何でしょうか？ これを調べたくて浜松までは各停に乗り込み、夜

は鰻にしました。今日はちょっとカロリーとコレステロールを取り過ぎましたか。嗚呼、大反省。

### 南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。